

FOR IMMEDIATE RELEASE
November 17, 2016

トンコハウスと20世紀フォックスアニメーションが
『ダム・キーパー』の新しい扉を開く長編映画の共同制作発表

米国アカデミー賞ノミネート監督

ロバート・コンドウと堤 大介が長編映画を手がける

(カリフォルニア州ロサンジェルス) トンコハウスと20世紀フォックス・アニメーションは、トンコハウス創立者のロバート・コンドウと堤大介が脚本・監督を手がけた『ダム・キーパー』を元にした長編映画を制作することを本日発表した。本作品は、2015年米国アカデミー賞の短編アニメーション部門にノミネートされた。



アニメーションテスト静止画

Copyright © 2015 Tonko House Inc. All Rights Reserved

元ピクサーのアート・ディレクター（『トイ・ストーリー3』、『モンスタース・ユニバーシティ』、『レミーのおいしいレストラン』）のコンドウと堤が本長編映画を監督する。そして、ジェーン・スターツ・プロダクションやブルースカイ・スタジオに所属し、現在はフリーのプロデューサー、ケーン・リーが制作を指揮する。多くのファンを魅了した短編のキャラクターや世界観をトンコハウスのチームが深化させた。その構想を20世紀フォックスの担当役員、ダーリーン・カマニョロケがここまでリードし、今後も引き続き取りまとめる。トンコハウスが招来した脚本家、ジョン・ヘンリー・ヒンケルも本プロジェクトに加わった。

フォックス・アニメーションのヴァネッサ・モリソン社長は、「トンコハウスと共に事業を手がけることに期待を膨らませています。あの革新的な短編を長編映画に発展させるお手伝いができることを光栄に思います」という談話を発表した。また、コンドウと堤は共同声明で、以下のコメントを発表した。「『ダム・キーパー』の世界で長編映画のストーリーを考え始めた時から、ピッグとフォックスの次の一歩の手伝いをしてくれ、激動の今日の視聴者に向けてどのように作品を届けるための良きパートナーは誰だろうと思っていました。今、20世紀フォックスこそが私たちのキャラクターたちにとって理想的なホームだと感じています。そして、共にリスクを負って新しいストーリーテリングの可能性を探っていけることを楽しみにしています」

長編映画『ダム・キーパー』の舞台は、短編で描かれた世界の数年後に設定され、短編を観た視聴者から関心の高かった疑問にこたえる内容になる。手描きのようなビジュアルの8000枚を超えるデジタル・ペインティングから構成される無声の短編2Dアニメーションは、今回の最新作品は台詞の入ったCGアニメーションとして生まれ変わる。すでにトンコハウスの監督のもと、初期のアニメーションテストも制作されている。

「ピクサーやブルースカイなどのスタジオで10年以上もCGアニメーションに携わっていたので、僕らの最も得意とする手法で長編映画を制作できる事を楽しみにしています」とコンドウと堤は語る。「今、数え切れないほどのアニメーションが存在する市場で、どうやったら際立つことができるかと考えていますが、何か今までにないようなものを作れるのではないかと信じています。日本に文化的な根をもつトンコハウスだからこそ、東洋と西洋を橋渡しして、豊穡な二つのアニメーションの伝統の良いところを引き出せるのではないかと思います」

今回の長編映画制作は、『ダム・キーパー』をめぐる他のプロジェクトのニュースと相まって発表された。コンドウと堤は、『ダム・キーパー』のグラフィックノベル三部作を現在執筆中で、その第一部は2017年にマクミラン社の奥付であるファーストセカンド・ブックスから出版される予定です。また、先週にはビッグとフォックスの友情をテーマにした10話のシリーズを日本のHULU（HJホールディングス合同会社）と制作することを発表したばかりだ。本作品は、元ピクサーに所属し（ファインディング・ドリー、インサイドヘッド）、最近トンコハウスに加入したエリック・オーが監督を務める。オーはオリジナルの短編『ダム・キーパー』で作画監督も務めている。

トンコハウスとは

トンコハウスは、米国アカデミー賞にノミネートされた堤大介とロバート・コンドウによって2014年7月に、アーティストの成長を助け、世界中の視聴者にストーリーを伝えるという目的で設立された。トンコハウスの最初のプロジェクトは、多くの関係者からも絶賛を受けた『ダム・キーパー』で、本作品は世界で75を超える映画祭で上映され、25の賞を受賞、2015年の米国アカデミー賞のベスト短編アニメーション部門にノミネートされた。同スタジオは、最近では川村元気の絵本原作の『ムーム』という短編映画を制作、20を超える賞を受賞している。『ダム・キーパー』を制作する以前は、堤とコンドウはピクサー・アニメーション・スタジオで美術監督として多くの作品を手がけている。

米国アカデミー賞受賞監督のピート・ドクター（インサイドヘッド、カールおじさんの空飛ぶ家）に CNN の「次の大物」にも選出されたトンコハウスには、アメリカ国内にとどまらず、世界中にいる熱心なファンが増え続けている。昨年春には、東京銀座のクリエイション・ギャラリーG8にてトンコハウス展を開催。様々な作品に混じって、長編映画のために創作された絵画や彫刻なども展示された。今後も日本国内や海外でも展覧会を開いていく予定にしている。また、サンフランシスコ・フィルムソサエティーやサンフランシスコ近郊の公立小学校とともに、2015年に作った『ダム・キーパー』を使った教育プログラムはストーリーテリングを使った創作表現にフォーカスし、いじめや環境問題などを子供たちが話し合う機会を提供している。このプログラムは2017年より、グローバルに拡大していく予定だ。

トンコハウスはカリフォルニア州バークレー市に居を構える。詳しくはこちらのウェブサイトから。(<http://www.tonkohouse.com>)

20世紀フォックスとは

世界最大規模の映画制作、配給会社である20世紀フォックスは、世界中の映画を購入、配給している。これらの映画は、以下の20世紀フォックスの関連会社によって制作、購入されている。Twentieth Century Fox, Fox 2000 Pictures, Fox Searchlight Pictures, Fox International Productions and Twentieth Century Fox Animation.